

丸井織物、プリントTシャツ「Up-T」が成長

丸井織物（石川県）のオリジナルプリントTシャツを受注する「Up-T」（アップティー）は15年にスタートし、今年は年商3億円（前期比3倍）見通しと右肩上がりで成長している。自社オンラインショップを通じたB to C（企業対消費者間取引）で、一枚320円からオリジナ



Tシャツ用プリンターを相次ぎ増強。
受注から配送まで仕組みを整える

丸井織物（石川県）のオリジナルプリントTシャツを受注する「Up-T」（アップティー）は15年にスタートし、今年6台、現在15台と生産体制が一気に広がった。さらにこの延長でスマートフォンカバーなどグッズプリンタにも進出し、専用のUV（紫外線）プリンター、昇華転写プリンターも14台まで増やしている。

売上高3倍増に 自社で受注・製造の構築を

発注者は自作のイラストや写真などを注文サイトから上げ、オリジナル商品が作れる。このプラットフォームを生かし、法人需要や全国の同業他社からの注文も獲得。クリエイ

ルTシャツが注文でき、3日で出荷するというQリ体制も構築している。

II3面参照

当初は自社の余剩スペースでTシャツ用インクジェットプリンターハー1台からスタートし、昨年6台、現在15台と生産体制が一気に広がった。さらにこの延長でスマートフォンカバーなどグッズプリンタにも進出し、専用のUV（紫外線）プリンター、昇華転写プリンターも14台まで増やしている。「織布事業と関連ないよう見えたが、消費者に直接売る仕組みを作ることが既存事業にも波及する可能性がある」（宮本徹社長）とする。実際、業務上のやり取りをチャットを駆使してタイムリーに行なうなど、「スピード感が増し、企業風土も変わってきた」（宮本米藏常務）とプラス効果を実感する。

I T関連では、LINEスタンプの作成販売も軌道に乗る。また、カジュアル服を企画するオールユアーズ（東京）に資本参加し、クラウドファンディングを活用して合織素材の新しい機能商品を開発するなど、マーケティングも進化させていく。

ターの作品や個人作品を他のユーザーが注文できるなど、新しい消費の形態も模索する。

いずれも本業である合織長纖維織物とは直接の結びつきはない。同社は15年度にスタートした6ヵ年の中期ビジョンで、「業態」「製品」「技術」の革新を掲げ、IT（情報技術）を使った新規事業立ち上げを進めているが、アップティーもその一つだ。